

本学、経済学部4年の横井温野さんが、FP1級に合格された体験記が月刊誌「Kinzai Financial Plan」2月号に掲載されますことのお知らせします。

FP1級 合格体験記

横井温野（はるや） 九州共立大学 経済学部 4年

学習のきっかけ

大学入学当初から経済や金融について興味があり、将来は金融機関で働きたいという思いがありました。そのため、金融機関で実務経験のある先生のゼミを選択し、先生の指導の下、FP3級や日商簿記3級を学び始めたことが、FP1級の取得を目指すきっかけとなりました。

また、AFP研究会にも所属し、そこでは下級生へのFP資格勉強の指導やゼミの先生の税理士事務所で相談業務に従事しました。2年間の実務経験からFP1級の取得を目指すことで、老後2000万円問題や資産運用など、今後多くの人が直面するであろう問題を解決できるビジネスパーソンになりたいと思い、キャリアビジョンの実現に向けて資格取得に挑戦しました。

学習の方法

FP3級、FP2級は順調に取得できたため、FP1級の学科試験も同じように教科書を読みました。問題集や模擬問題は各5回ほど解き、基礎編4割、応用編8割を目標に、試験に挑みました。しかしながら、結果は100点にも及ばず、合格率10%の壁に直面しました。この後も2、3度足踏みをするようになってしまいました。

そこで、2度目の受検から学習方法を見直し、インターネット上で過去問題を印刷できるサイトを検索しました。2014年1月の試験から直近の過去問題を全て解き、合格に近づこうと試行錯誤しました。まずは過去問題と異なる言い回しを確認することや、不正解だった問題の傾向などを調べ、FP1級の難易度に慣れることにしました。ゼミの先生の税理士事務所で実務経験を積んだとはいえ、当時の知識量では内容をなかなか理解できず、受検当初は試験に合格するための対策であったと今では感じます。応用知識の勉強も同じように正解を求めることに執着した学習となり、2度目の受検で点数は110

点台まで伸びたものの、内容の薄い学習だったと少し後悔しています。

これらの反省を生かし、次は試験に合格するだけでなく、今後のキャリアにもつながるよう、年金の必要性や保険制度など、一つひとつの内容を理解しながら6分野の学習を深めました。

初めは○か×かで回答していた問題も、正答の理由を付け加えながら学習に取り組むことができるようになり、自然と点数も伸びていきました。FP試験だけでなく、日常から「なぜ」を突き止めていくことで、見聞を広める癖が身に付いたと感じています。

最後に

学生の身分でありながら、今回このような寄稿の機会をいただけたことに大変感謝しています。資格試験だけでなく、税理士事務所での貴重な実務経験からも、行動面やメンタル面での成長を自分自身で感じることができました。今後は目標とするビジネスパーソン像に近づき、社会に貢献できるよう、知識をインプットからアウトプットへ変換する必要があります。

次回の実技試験では口頭試問に挑戦する予定のため、合格はもちろんのこと、知識のアウトプットの練習機会だと思い、失敗を恐れずに取り組んでいきます。

過去の合格体験記を拝読し、FP1級を取得することが目的になってはいけなくとも感じています。その中で、皆さまも同じように個々の目的をもって受検されていることが分かりました。私もキャリアビジョンを広げ、業務に生かしたいという目的が明確になりました。

今後のキャリアについて真剣に考えている方は、迷わずFP1級に挑戦していただきたいと思います。